

月刊
さわやか

第110号
平成28年6月15日

公益社団法人
日野市シルバー
人材センター
日野市日野本町2-4-7
TEL 042-1581-8171

当センター
シルバー派遣事業
7月1日から実施
4月理事会で決議
来年度開始予定を早めて

すでに会員の皆様にお知らせしたように、当センターは平成29年4月から派遣事業を開始する予定でしたが、これを早めて今年7月から開始することを4月の理事会で決定しました。

これまでの「請負」契約による事業に加え、新たにシルバー派遣事業を始めます。今までの「請負」契約方式では、実体的に雇用関係にある就業は、偽装請負(指揮

命令・混在就業等)と判断され、契約することができませんでした。

シルバー人材センターが行う一般労働者派遣事業は、これまでのシルバー事業の範囲(臨時的かつ短期的な業務または軽易な業務)に限定されますが、この派遣事業を実施することで従来の「請負」だけでなく「雇用」という形態の働き方が可能となり、今まで以上に高齢者の持つ知識、経験を活かした就業ができることとなります。

派遣事業の実施主体は、「公益財団法人東京しごと財団(東京都シルバー人材センター連合)」が派遣元事業主となり、活動拠点は「公益財団法人東京しごと財団日野派遣事業所」として事業を遂行することになります。

シルバー会員の中で派遣就業可能な方は、派遣会員として登録します。派遣労働会員として派遣される期間は、会員と東京し

会員数

平成28年4月30日
計 1,602名
男性 1,173名
女性 429名
4月入会者81名
(男56名、女25名)
4月退会者14名
(男11名、女3名)

「請負」と「シルバー派遣」の比較

項目	請負	シルバー派遣
仕事の時間・内容	臨時的・短期的な就業(概ね月10日程度以内)又は軽易な業務(週20時間未満)	
雇用関係の有無	なし	あり(契約は連合)
発注者の指揮命令	受けない	受ける
事故時適用される保険	シルバー保険	労災
発注者との契約当事者	日野市SC	東京都SC連合
社会保険・雇用保険の有無	なし	
会員に関する報酬	配分金(雑所得)	賃金(給与所得)

ごと財団の間に雇用関係が生じ、東京しごと財団から賃金が支払われます。派遣労働会員として働く場合は、派遣先での就業時、指揮命令の下で働きます。

「会員アンケート」
718件44%回収

会員の皆様にお願ひした「会員アンケート」は、本紙4月号で締切日を4月末に延長し、計718件の返送をいただきました(回収率44・3%)。ご協力ありがとうございました。この後、会員皆様のご意向を集約・分析し、対策をも検討し、改めてご報告させていただきます。

総務委員会

第67回定時総会

日時：平成28年6月17日(金)13:00～
場所：七生公会堂

(1)「きずな」コーラス13:00～13:20
講演「自転車安全運転」13:30～14:00

(2)定時総会
27年度事業報告・収支計算書の報告
決議事項：貸借対照表及び正味財産増減計算書
報告事項：28年度事業計画・予算

「今回6ページ建て」

3面||シルバーいきいき祭り
4面||各委員会のメンバー紹介
5面||リビングサポート班の活動

平成28年度 第1回地域班長会議

シルバー派遣事業で説明

平成28年度第1回地域班長会議が6月3日、生活・保健センターで開催されました。地域委員会の高木委員の司会のもと、まず北村会長が挨拶。次いで今年度の各地域班ブロック長6名(左表参照)に対し、北村会長より委嘱状が手渡されました。ブロック長への委嘱状交付は初めて。

恒例の各委員会報告や定時総会・決算・予算の説明に続いて、今回はとくに7月1日開始のシルバー派遣事業について、由井アキラ就業開拓員(百草台2班々長)が説明しました。内容は1面掲載

ブロック長・担当理事一覧表 (敬称略 H28.4.1)

ブロック	ブロック長	担当理事
A	池内 直彦	市川 勝正
B	大間知紀彦	賀来 英紀
C	今井 信一	宮古 和則
D	馬場 邦久	渋谷 善子
E	三宅 省三	瀬田 隆
F	小林 清	徳田 功



地域班長会議で説明する由井就業開拓員

の記事と同じです。

一斉清掃は年2回実施へ

この後、市川地域委員長より、今年度から全地域班一斉清掃が1回増え、年2回(7月3日と10月23日)実施することになったとの説明がありました。その趣旨は、地域班ごとのボランティア清掃活動(現在3班が実施)は班長の負担が大きく、一斉にすれば軽減されるため。

地域班活動は必要不可欠

7〜8月に行われる地域班会

議についても市川委員長は、出席率向上を要請するとともに、「地域班はセンター運営のかなめ」との北村会長の挨拶に連動して、「地域班活動はセンター事業の根幹であり、必要不可欠なもの」と強調、また「とくに女性会員を誘ってほしい」と訴えました。

7月あいさつ運動に参加しましょう

7月1日(金)に市内全小中学校であいさつ運動がおこなわれます。地域最寄りの会員の方はぜひ参加してください。参加の連絡先は左表のとおりです。

あいさつ運動参加連絡先

BLCK	地域委員	携帯電話
A	市川勝正	090-7013-6746
B	吉野久忠	090-8430-5095
C	梅澤茂行 高木計宏	090-1100-3898 090-5812-2982
D	倉澤 博	080-1300-8076
E	阿川 茂	090-2242-0111
F	小林 清	090-3909-4781

※所属ブロックの不明な方は、地域班長におたずねください。

理事会二ユース

★第2回理事会 5月30日

・審議事項 ①正会員の入会(11名承認、6月1日入会)、②平成27年度事業報告及び決算、③定時総会付帯事項、④被表彰者の推薦

・報告事項 ①平成28年度事業実績(4月分) ②契約金額4937万円(前年度比4.9%増)、②各委員会の活動状況

「センター行事日程」

●6月17日(金) 第67回定時総会 七生公会堂

●7月3日(日) 全地域班一斉清掃 各地域班

全地域班一斉清掃

第1回 7月3日(日)

参加は会員の義務です。

— 地域委員会

配分金の支払日

6月20日(月)
7月20日(水)
8月19日(金)
9月20日(火)
10月20日(水)
11月18日(金)
12月20日(火)
1月20日(金)

●「各委員会の補充人事」
女性委員会1名(計5名)
・木原良江 Ⅱ 多摩平3班

第1回シルバーいきいき祭り

旧リサイクルフェア 装い新たに 会員・市民つどろ

5月21日(土)、初夏を思わせる晴天に恵まれ、装いも新たに第1回「シルバーいきいき祭り」がリサイクル事務所で開催されました。

開場は午前10時ですが、すでに8時からテント設置要員は作業を開始。8時半には運営スタッフ一同勢ぞろいし、お客様受け入れの準備をしました。

今回の「シルバーいきいき祭り」では、従来のリサイクルフェアをリ



目玉のスピードくじと義援金箱



定番・再生自転車販売の抽選券渡し

ニューアルし、とくに会員の皆様、そして市民の方々に多数お集りいただき、和気藹々と楽しみ、ふれあう場づくりをめざしています。これによりシルバー人材センターの認知度のアップ、リサイクル品の販売促進を図ることが目的です。

そこで今回は、次の点を目玉にしました。

来場者全員にスピードくじ
○来場者全員にサービスとして、



人気の豚汁を待つ人たち

- 空くじなしの「スピードくじ」
— 1等 魚沼産こしひかり5kg(3名)、2等 缶ビール12本セット(10名)、3等 クオカード500円券(10名)等
- 熊本地震に対する「災害義援金」の募金箱設置
- 前回同様「よろず相談コーナー」
- 再生自転車の販売台数を従来の30台から41台に増加
- 来場者が楽しみにしている模擬店の拡充 — 定番の焼きそば、焼き鳥、豚汁などに加え、玉こんにゃく、パンケーキ、ポッポコーン等
- 来場者用の休憩ブースにDVD装置を設置

就業期限確認書交付式

7月1日から就業が始まる公共部門23カ所、25名に対する就業期限確認書の交付式が6月3日、生活・保健センターで行われました。北村会長が挨拶し、就業期限確認書や就業者の心構え等について説明。日野駅周辺の自転車整理に就業する小森勝雄氏が、一同を代表して北村会長から確認書を受け取りました。

続いて、宮古安全管理委員長が安全講話を行い、都SCで起きた一昨年度4名、昨年度2名の死亡事故を例に注意を促しました。



北村会長(中央)から確認書を受け取る小森氏(右)

各委員会のメンバー紹介(敬称略・50音順)

(平成28年6月1日現在)

委員会	構成員名(◎委員長、○副委員長) 一部委員は複数委員会を兼務。有賀副会長は広報委員長を、増子常務理事・事務局長は安全管理委員を兼務。
総務委員会	◎賀来 英紀、○岡村 和夫、岸 重雄、光田 烈、由井 アキラ
事業委員会	◎瀬田 隆、○新藤 誠一、大岡 芳枝、川瀬 明廣、近藤 絹子 米田 直康
業務委員会	◎徳田 功、○根津 正美、大岡 芳枝、川瀬 明廣、栗山 進 渋谷 善子、新藤 誠一、宮原 廣
地域委員会	◎市川 勝正、○倉澤 博、阿川 茂、梅澤 茂行、小林 清、高木 計宏 吉野 久忠
女性委員会	◎渋谷 善子、○森久保 玲子、上嶋 光代、上條 あつ子、木原 良恵
安全管理委員会	◎宮古 和則、○穴山 忠敬、稲毛 良司、奥住 光雄、小原 堅嗣、須藤 孝雄 田中 政寿、徳田 功、増子 和男、渡辺 由紀子
広報委員会	◎有賀 信夫、○田中 政寿、○光田 烈、井手 了、今村 優、清水 本子 鈴木 博、田中 妙子、戸石 哲雄

全シ協・都SC連
合のニューースから

今回は全シ協誌『月刊シルバー人材センター』今年5月号より、次の記事を紹介いたします。

■シルバー会員百万人の実現〜生涯現役社会を担うシルバー人材センター〜

同誌は右表題の特集を組み、全国SC会員が約72万人(平成26年度)と伸び悩んでいる中で「着実に会員が増えているセンター」として春日部市SC、高松市SC、宮崎市SCを取り上げています。以下、ワンポイント紹介。

●春日部市SC Ⅱ 入会説明会を改善。説明会をプレゼンの場と位置づけ、「健康寿命」を切り口としたプレゼンを考案している。

●高松市SC Ⅱ 仕事があつてこそその会員増強として、双方マッチングの仕組みをつくり、新入会と同時に8割の就業先が決定。

●宮崎市SC Ⅱ 植木・除草・農作業の3職種依存を見直し、女性会員による福祉・家事援助分野の拡充を中心に会員増強へ。



ボランティア活動中の班員

高幡不動尊境内のベンチ修理

リビングサポーター班がボランティア活動

多くの参拝客で賑わう高幡不動尊。参拝殿裏側にある四阿（あずまや）に六脚のベンチが置かれ、気持ちの良い休憩場所になっている。

このベンチ、一年半ほど前に当センターのリビングサポーター班が受注、納品したものだ。ネジなどが緩んで事故などが起こらないよう、当時の担当者を中心に時折点検を行っていたが、参拝客がどつと増える「あじさい祭り」を前に、塗装を含めオーバーホールをしよう

と班員に呼びかけ、四回に分けて

自主的な奉仕作業を実施、このほどベンチは真新しい姿に蘇った。

呼びかけに応じて参加した班員達は「大変だったが、気持ちの良い汗をかけた」と清々しい表情であった。お不動さん側も「尊いお心遣いを戴いた」と感謝の気持ちを述べられている。参拝のおりには、是非ここでのご一服をお薦めしたい。

宇都宮市SCCのサロン事業を視察へ 事業委員会

事業委員会はかねてより、独自事業の新規開拓の一つとして「シルバーサロン」の立ち上げを検討しています。今年度事業計画の基本方針でもうたっている「会員相互の交流促進」や地域協力、センターPRに役立てる「地域ニーズ対応事業」の一環です。

この点では、すでに宇都宮市SCCが街中の空き店舗を活用して「はなむすび」2店舗を開いており、事業委員会は7月4日、この「はなむすび」を視察します。

平成28年5月度 各委員会の活動

【総務委員会】

10日開催。①横断幕をリサイクル事務所に掲出(5月一杯)②会員アンケートの回収③集計作業の進捗確認③会員相互の交流会の推進④表彰規程の見直し。

【事業委員会】

26日開催。①サロン事業への取り組み②宇都宮市SCC「はなむすび」視察準備②買い物代行サービス事業検討③スマホ教室事業について(港区SCC視察結果)。

【業務委員会】

12日開催。①就業案内と応募状況②職群班事業の拡大と問題点の改善(パソコン班)③職場グループ交流会について担当委員の意見交換④いきいき祭り報告。

【地域委員会】

11日開催。①28年度事業計画と課題、役割分担②新任班長研修の結果報告③地域班会議における質問・要望事項のまとめ④第1回地域班長会議の開催準備。

【女性委員会】

18・25日開催。①女性委員会だより第4号の発行準備②各種

講習会(多肉植物・布ぞうり・手作り豆腐)の準備③第4回女性限定入会案内説明会について。

【安全管理委員会】

19日開催。①安全標語の応募状況②安全就業強化月間の取り組み③その一環として第七ブロック安全研修会(7月29日)④職場安全巡回でのペア巡回を検討。

【広報委員会】

9日開催。①『月刊さわやか』6月号紙面計画・今後の方針②ホームページのリニューアル・イメージ③『シルバーひの』編集方針について④広報全般について討議。

それってなに?

SCCのサロン事業

地域の高齢者が身近な所で気軽に集まることができる「交流の場」が求められています。こうした地域ニーズに対応して「場」の提供を事業化する試みが「サロン事業」です。すでに日野市内でも「ふれあいサロン」が各所に誕生しています。当センターはこれを会員が自主的に運営する「シルバーサロン」として検討。飲み物のサーブスから囲碁・将棋・手芸等趣味の場、あるいは各種「教室」提供など多目的施設をめざします。

都SCで昨年12月 死亡事故2件 共に植木関係者各1名 平成26年度の死者4名 集中発生に続いて

東京しごと財団(東京都SC連合)主催による「植木剪定就業に関する安全就業研修会」が4月8日、東京しごとセンター講堂で行われました。都全SC対象で、当センターから増子事務局長と安全管理委員会の宮古委員長・稲毛委員の3名が参加しました。

研修目的は、昨年12月に都SCで起きた2件の死亡事故への対応。2件とも植木班の業者で、1件は区部、他は市部で起こりました。

■Aセンターの場合

事故状況は次のとおり。

会員Aさん(80)は経験14年。

午前8時ごろ同僚(除草)と2人で作業開始。約20分後、Aさんは脚立または木から落下し、頭を打った。ヘルメット・安全帯の着用なし。同僚は救急車を呼ぶと言ったがAさん拒否。11時ごろ異変に気づき119番通報したが、夕刻死亡。急性硬膜下血腫。脳内血腫。

■Bセンターの場合

会員Bさん(78)は経験17年。午前9時から同僚と2人で作業。午後2時ごろBさんは脚立または木から落下し頭を強打。ヘルメット・安全帯は着用していたが、頸椎骨折で13日後に死亡。

この死亡事故2件は、平成26年度に都SCで起きた4件の死亡事故に続くものです。

3〜4月 都SC

重篤事故7件発生

東京しごと財団は「臨時注意喚起」と銘打った蓮沼事務局長の4月28日付通達で、今年3〜4月の2カ月間に都SCで重篤事故7件が集中発生したことを明らかにしました。重篤事故とは入院30日以上が見込まれる事故。7件の内訳は

- ①自転車乗車中の自損事故3件
- ②転倒・転落2件(うち1件は植木関係)
- ③軽作業中2件

このため東京しごと財団は、安全啓発チラシ(別掲)の活用、交通安全講習・注意呼びかけの強化等を訴えています。

安全啓発チラシ

東京しごと財団が訴え



命を守る一時停止



指差呼称で安全確認

おいしいコーヒー

山岸 可奈

私には四人の孫がいる。上三人は自立の道を歩み何の心配もないが、最後の孫は野球に魅せられ勉強はそっちのけと、ちよつと心配な孫。

試合の度に応援の呼びかけがある。活躍した時は、はにかんだ笑みと得意そうな顔が私を包む。男の子でなければ感じえない勇壮感に心熱くなる。満足感と期待を感じながら家路に急ぐ。

その彼が、度たび、何かある毎に駅前のおいしいコーヒーが飲みたいと電話してくる。何の変哲もない喫茶店だが、私との会話の時はその店を指定する。友達と喧嘩した時、パパに叱られた時、女の友達ができた時、高校入試に悩んだ時、その度に両親の思いに沿っての助言を与えた。

帰り際はいつも「このコーヒーおいしいね。又くるね」と笑顔で帰って行く。その彼が大学入試に躓いた。いつものようにコーヒーを飲みながら、両親の思いや彼の思いを聞きながら、初めて助言は与えられなかった。「コーヒー美味しいね」とも言わなかった。

美味しいコーヒーをゆっくり味わえる日がくることを信じて待っている私です。

(新町班)

安全標語の募集締め切りを延期します

6月30日まで。ぜひ応募を